

# 第3学年 学年通信 ~全員合格~

名古屋市立名塚中学校

No. 11 令和6年2月26日 発行

## 最後のチャイム

人生が約 80 年だと仮定した時、この地球上で、あなたが「人」と出会う確率はどのくらいのものだろう。ある研究では、次のように言われている。

何らかの接点をもつ人と出会う確率は「26万分の1」  
同じ学校や職場・近所の人と出会う確率「260万分の1」  
親しく会話をする人と出会う確率「2600万分の1」  
友人と呼べる人と出会う確率は「2億6000万分の1」  
親友と呼べる人と出会う確率は「26億分の1」



『一生に一度の出会い』を『一期一会』というのを聞いたことがあるだろう。この『一期一会』とは、戦国時代の文化人、千利休が最初に使った言葉とされている。彼は『茶』を通して人と出会い、その出会いを大切にするために、茶室に招き、茶器を準備して、茶道の振る舞い・所作を大切にすることで、心で相手に向き合った。

また、この『一期一会』の背景には、出会いだけではなく、「もう会えないかもしれない」という別れへの想いも併存している。だからこそ、彼はその出会いの喜びと別れの悲しみに対する気持ちを『茶』に込め、寒い日には火を焚いて部屋を温め、暑い日には打ち水をして、その瞬間にできる最高のもてなしを施した。

卒業式が近づき、中学校3年間での数多くの「出会い」は、あと数日で数多くの「別れ」へと変化していく。もし千利休が今この場に生きていたら、あなたにどんな言葉をかけるだろうか。

現代の『一期一会』という言葉は、「一生に一度だけ」という機会そのものを表すことから派生して、日常生活における人との出会いや絆を大切に、「この瞬間をしっかりと生きる」という意味でも使われるようになっていく。

残りの学校生活の中で「この瞬間をしっかりと生きる」とはどういうことなのだろうか。身だしなみ、あいさつ、チャイム着席、仲間への思いやり……など、この学校での当たり前前の振る舞いを大切にすることこそ、その振る舞いこそが、『卒業』に対して心で向き合っていくことにつながっていくだろう。

残り少ない当たり前前の日常に感謝し、最後をどう終えていくのか。「別れまでの時間」を大切にしていくことこそ、次への新しい「出会い」へとつながっていく。最後のチャイムまで残りわずか。素晴らしいフィナーレを！

### 卒業式について

3月6日(水)は卒業式です。生徒の皆さんは8:15~8:30の間に、正門から登校します。

卒業生のカメラの扱いについては以下の通りです。

- ① 学校敷地内への持ち込みは、デジタルカメラ又は使い捨てカメラとします。スマートフォンの持ち込みは認めません(門出式後、新福寺公園で保護者から受け取ることは可)。
- ② カメラの使用は「登校~学級活動開始前」「式前・後の学級活動中(学級担任の指示の下、教室内で)」「新福寺公園内」とします。門出式の間は使用しません(立ち止まって進行の妨げとならないように)。
- ③ 個人情報保護の観点から、撮影された写真・動画の取り扱いには十分ご配慮ください。また、SNSによる拡散はお控えください。